

鳥取ブルーシートプロジェクト(8/22 ワークショップ) 新聞記事など

■2017/8/15 産経新聞(WEB ニュース)

「鳥取ブルーシートプロジェクト」始動 震災の“象徴”バッグに变身

8/15(火) 7:55配信



鳥取県中部地震の復旧に使われたブルーシートをバッグに加工し、その売り上げの一部を復興支援に充てようという「鳥取ブルーシートプロジェクト」が今月、県内で動き出す。被災住宅の屋根に張られ震災の“象徴”ともいえるブルーシートのイメージを転換、復興を後押しする。

プロジェクトを実施する主体はウッドプラスチックテクノロジー（本社・同県倉吉市）。同社はブルーシートのリサイクルで建築現場用敷板を商品化している。県中部地震の復興が長期におよぶ中、ブルーシートを復興のシード（種）に変え、関心が薄れるのを防ごうと企画した。

被災地で使用済みのブルーシートを建設会社などから収集。昨年4月の熊本地震の際、ブルーシートプロジェクトを発案・実施した熊本県の団体「Bridge KUMAMOTO（ブリッジ・クマモト）」に送り、大分県の縫製工場にてトートバッグに加工する。

バッグは鳥取県内の小売店などで1個3900円で販売。企業の商品の売り上げの一部をNPOなどに寄付している、とっとり県民活動活性化センターの「お買い物チャリティー」の仕組みを使い、県中部地震、熊本地震の復興活動などへ、売り上げの4割を寄付する計画だ。

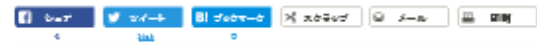
プロジェクトを知ってもらおうと、8月22日午前10時から、倉吉市の上灘公民館で、熊本県に送るブルーシートを切断・洗浄するワークショップを開催。参加者を募集している。この日からバッグの予約受け付けを始め、バッグの完成は9月以降になる予定。同社では5000個の販売を目標にしている。

プロジェクトなどの問い合わせは同社（電）0858・24・6650。

■2017/8/19 朝日新聞(WEB ニュース)

鳥取)ブルーシート再利用で復興支援 熊本と鳥取と

古澤 隆一 2017年8月19日09時00分



販売されるバッグ、県内向けはTOTTORIのスタッフが
通知されるBridge KUMAMOTO提供



昨年10月に起きた県中部の地震の被災地で使われたブルーシートを手提げバッグに加工して販売し、収益の一部を復興のために寄付する事業が始まる。バッグの縫製は熊本市のアパレルメーカーに依頼。鳥取、熊本両県の復興に役立つ。倉吉市 内で22日、各家庭で使われたブルーシートを切断、洗浄するワークショップが開かれる。

「鳥取ブルーシートプロジェクトと結び、工事用資材メーカー「ウッドプラスチックテクノロジー」(倉吉市 谷)が手がける。シートを復興の種(シード)にしよと、熊本地震の復興活動に取り組み一般社団法人「Bridge KUMAMOTO」が昨秋から取り組んでいる事業の鳥

取版になる。

バッグは幅約33センチ、高さ約30センチ、裏地や取っ手を付けるなど加工し、販売 予定価格は3900円(税別)。9月末の「とっとり防災フェスタ2017」(米子市)や、倉吉市 内などで販売する予定という。公益財団法人「とっとり県民活動活性化センター」(倉吉市)が仲介して売り上げの1割を県中部で活動するNPO「復興支援隊(えにし)」(同)に寄付される。残りの一部は熊本地震の復興支援にも回す。

ウッド社は、製材工場から出た木くずとプラスチックを原料にした工事用や農業用の資材を開発しており、今秋からプラスチックの一部をブルーシートで代替した工事現場用敷板の販売・レンタルも始める。収益の一部は復興支援にあるという。

同社の古米(ふるまい)副社長(48)は「ブルーシートを使うことで原料調達や着色のコストが3割程度削減できる見通しもある。価格を安くでき、社会にも貢献できる」と話す。

県中部の地震では、屋根の被害が大半を占めた一部破損が1万5037棟(18日現在)。ブルーシートは倉吉、北栄、湯梨浜、三朝の4市町で計約3万9千枚が配られた。使用済みのシートは産業廃棄物として処分されているという。

ワークショップは22日午前10時から、上灘公民館(倉吉市 上灘町)で、無料。プロジェクトのチラシ(<http://www.gpn.jp/event/seminar/170822WPT.pdf>)に氏名、連絡先などを記入してファクスで申し込む。問い合わせはウッド社の古米さん(080・3082・9837)へ。(古澤 隆一)

■2017/8/20 日本海新聞

催し

22日 倉吉 熊本からのブルーシートを再利用

鳥取県中部地震の被災地に熊本県から送られてきたブルーシートをリサイクルするワークショップが22日午前10時から、倉吉市の上灘公民館で開かれる。参加無料。

地震の風化を防ぐのが狙いで、同市内のウッドプラスチックテクノロジーとBridge Kumamoto、とっとり県民活動活性化センターによる鳥取ブルーシート(復興のたね)プロジェクトが実施。熊本地震の復興の取り組み、ブルーシートについて学び、ブルーシートを切断、洗浄して熊本県へ送る。

同県に送られたブルーシートはリサイクルバッグに生まれ変わり、販売される。売上金の一部は鳥取県中部地震被災地への支援金などに充てられる。問い合わせは電話0858(24)6650、ウッドプラスチックテクノロジー。

■2017/8/22 山陰放送(BSS)テレポート山陰



■2017/8/22 日本海テレビ(NKT)ニュース番組



■2017/8/22 山陰中央テレビ(TSK)ニュース番組



※8/22 ワークショップ当日は、下記報道機関の取材あり。

新聞5社(日本海新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、中国新聞)

テレビ局4社(NHK、日本海テレビ、山陰中央テレビ、山陰放送)

ブルーシートで復興支援



ワークショップでブルーシートの裁断作業に励む子どもたち＝22日、倉吉市上灘町の上灘公民館

親子連れら裁断、洗浄に汗

昨年10月の東中部地震の被災地で使われたブルーシートをトートバッグに加工して販売し、収益の一部を復興支援に充てる取り組みが、県内で始まった。22日は倉吉市内でシートを裁断、洗浄する作業に有志らが汗を流した。

（田中美千留）

ブルーシートをブル（青い種）にして、収益の一部を将来的に生まれ変わらせようと取り組む熊本県の復興支援団体「Bridge KUMAMOTO」（佐藤元の親子連れなど約40人が代表）の活動に参加。熊本から佐藤代表と同じ、倉吉市谷のウツロプロジェクトのメンバー（中山東太社長）がブルーシートをバッグに加工し、親子連れらも参加。この日は162個分のシートをカットし、洗浄。この日は162個分のシートを準備した。

9月9日には鳥取市で会社から収集、裁断して、も梱包予定。佐藤代表は「活動を通じて加工されたものとして全国各地とつながる倉吉内の小売店や防災イベント、インターネットショップに販売する。ブルーシートをポシティブなイメージにすることも、バッグには「TOTTORI」のロゴを入れ、災害への関心を薄れないようにしたい」と抱負を話した。

昨年10月の東中部地震で使われたブルーシートをバッグに加工して販売、売上金の一部を復興支援金として役立てるプロジェクトが倉吉市で始まった。震災の風化を防ぐのが目的で、22日はワークショップが開かれ、ブルーシートを裁断、洗浄する作業に有志らが汗を流した。

（田中美千留）



ブルーシートを加工したトートバッグ。県内向けに「TOTTORI」のロゴが入る

目録売り上げは500個で、売り上げの1割をこつと町民活動活性化センターを通して復興支援活動に役立てる。

中山社長は「地元業者にも協力してもらい、短期間で進めてくれた。今後も活動を県内外に広げたい」と話す。同社は「今夏ブルーシートを原材料に使った工事現場用の敷板を開発。これもプロジェクトの一環として取り組む」と話した。

バッグに加工・販売プロジェクト始動

倉吉の企業、震災風化に危機感

ブルーシート 復興バッグに



ブルーシートをほぼ全て裁断する体験会の参加者（倉吉市上灘町）

倉吉市の工事用資材メーカ「ウッドプラスチック」と、「鳥取ブルーシートプロジェクト」と、熊本地震の被災地支援団体「BRIDGE KUMAMOTO」（熊本の親子連れなど約40人が代表）が企画。ブルーシートを加工し、親子連れらも参加。この日は162個分のシートをカットし、洗浄。この日は162個分のシートを準備した。

9月9日には鳥取市で会社から収集、裁断して、も梱包予定。佐藤代表は「活動を通じて加工されたものとして全国各地とつながる倉吉内の小売店や防災イベント、インターネットショップに販売する。ブルーシートをポシティブなイメージにすることも、バッグには「TOTTORI」のロゴを入れ、災害への関心を薄れないようにしたい」と抱負を話した。

東中部地震で使用

昨年10月の東中部地震の被災地で使われたブルーシートをトートバッグに加工して販売し、収益の一部を復興支援に充てる取り組みが、県内で始まった。22日は倉吉市内でシートを裁断、洗浄する体験会が開かれ、関係者は「鳥取が復興に向かう象徴として、活動を広げていきたい」と意気込む。

（塩田兼佑）



ブルーシートから作られたトートバッグ。中央に「TOTTORI」のロゴをあしらって販売する

倉吉の企業と熊本の団体 収益一部 被災地へ寄付

大分県内の縫製工場に加工を依頼する。バッグは幅約33センチ、高さ約30センチで、予定価格は3,900円（税別）。9月まで500個を製作し、倉吉市内の小売店やインターネットで販売する。

売り上げの一部は、公益財団法人「こつとりの県民活動活性化センター」（倉吉市）などを通じて、東中部地震や熊本地震の被災地支援団体に寄付される。

22日は、倉吉市上灘町の上灘公民館に住民らを招き、ブルーシート加工の体験会を開催。参加者約40人がはさみで裁断したり、ブラシで汚れを落としたりした。北米町の小学4年生、岡崎美空さん（9）は「友達の家にはまだシートがなかったので、おしゃべりなバッグをみんなに届けて、元気にしたい」と話していた。

同社は22日、バッグの購入予約受け付けも開始。中山社長は「日常的に使ってもらえることで、防災意識の向上にも役立ててほしい」。プロジェクトの代表理事（39）も「2つの被災地の助けにもなれば」としている。

問い合わせは同社（0858・24・6650）。